

卒業論文

地域医療情報ネットワークの考察  
～秋田県における Akita-ReNICS を例として～

提出日

2014年1月29日

指導教授

齋藤 正武 准教授

中央大学商学部

学科 経営学科

学籍番号 10C1106024E

氏名 大塚 倫太郎

地域医療情報ネットワークの考察  
～秋田県における Akita-ReNICS を例として～

中央大学商学部  
斎藤正武ゼミ  
大塚倫太郎

地域の医療機関が連携し、地域完結型医療を実現するためには、中核病院、専門病院、診療所、介護施設、リハビリ センターなどが一体となって、地域ぐるみで患者中心の医療を実現することが重要である。このように地域に分散された医療機関が円滑に連携するためには、それぞれが組織の枠を越えて情報共有をスムーズかつセキュアに行う必要がある。特に感染症に関しては、その伝播してしまうという性質上、命に係わる非常に危険なものであり、医療機関が中心となり、より迅速で正確な対策を講じなければならないと考えられる。また、日本の死亡原因でがん、心臓病に次ぐ第3位である肺炎は、肺炎球菌による感染症であり、症状が現れづらく、発見が遅れがちになるため、治療が難しい。

医療機関内においては、感染症治療および予防のために ICT (Infection Control Team) が組織化され、院内への感染の広がりを防いでいる。しかし、感染症は医療機関だけではなく、地域での取り組みが必要であり迅速に現状を把握し、地域の医療機関同士が情報を共有し合い、対応を行わなければならない。

加えて、プライバシーの問題や国からの補助金など、様々な障壁を抱え込み、有効に連携が取れていない現状がも存在する。

そこで、本論文では秋田大学医学部附属病院で感染症の情報を地域内で共有することを目的で開発された Akita-ReNICS (The Regional Network for Infection Monitoring Control System) に焦点を当て、(1) 運営側である秋田大学医学部附属病院へ訪問し、システム面を中心とした検証を行うこと、(2) Akita-ReNICS への参加医療機関3病院へ訪問をし、システム利用側からのヒアリングを行うことで、システム運営・利用側双方からのシステム評価を試みた。その結果、参加医療側からは、活用方法の情報不足、システムに対しての要望、が明らかになり、運営側(秋田大学医学部附属病院)からは、通常業務との兼ね合い、資金不足など、システムの外的要因から生じる問題が明らかになった。今後の課題としては、Akita-ReNICS での検証結果をもとに、地域での医療情報ネットワークシステムの在り方を考察し、日本独自の医療情報システムの方向性について議論するべきである。